

茨城県 社会福祉士会 NEWS

NO. 64

発行 一般社団法人 茨城県社会福祉士会
Ibaraki Association of certified Social Workers

発行日 令和元年8月1日<2019. 8. 1>

編集 広報事業部

事務局 〒310-0851

茨城県水戸市千波町1918

茨城県総合福祉会館内

Tel : 029-244-9030

Fax : 029-244-9052

ホームページ <http://www.csw-iba.org/>

Eメール csw-iba@ibaraki.email.ne.jp

全国大会お疲れ様でした！！

2019年6月1日～2日 第27回 日本社会福祉士会 全国大会・社会福祉士学会 茨城大会



全国大会お疲れ様でした…1

全国大会を終えて（会長・実行委員長から）…2～3

全国大会ボランティアに参加した会員の皆さまから…4～7

「福祉関係者のための成年後見制度活用講座」に参加して…8

会員の声「地域のソーシャルワーカーとして」…9

ブロック活動報告（県北、県央、県南、県西、鹿行）…10～14

事務局からのお知らせ・・・15

編集後記・・・16



全国大会を終えて



茨城県社会福祉士会会長 竹之内 章代

第 27 回日本社会福祉士会全国大会社会福祉士学会を 6 月 1 日、2 日の両日で開催致しました。大会前には、参加者が十分集まるかどうかを心配しておりましたが、当日参加の方を含め、全国から 1000 人を超える参加をいただきました。また、開会式には多数の来賓にもご臨席をいただきました。また、協賛や広告等のご協力も予定の数を上回り、大会準備当初の心配は吹きとびました。これもひとえに会員の皆さまのご協力のたまものであります。大会準備に奔走して下さった方、当日会場での対応にお力をいただいた方、参加者として大会を支えてくださった方、それぞれの会員に心より感謝申し上げます。

茨城大会では大会テーマを「地域共生社会の実現を目指して～新たな時代にしめす社会福祉士の真価～」とし、社会福祉士の制度が始まり 30 年以上経った今、改めて社会福祉士に求められる役割とそれを果たすための私たちの真価とは何かを問うものとなりました。基調講演では兵庫県立大学の竹端寛先生をむかえ「『当たり前』をひっくり返す～『私』から始まるコミュニティワーク」をテーマにお話いただきました。茨城県には共通基盤研修で 2 回ほどきていただき、研修をしていただきましたが、その時よりさらに先生の迫力のある話に引き込まれ、会場との双方向のやりとりに大きな気づきを得ることが出来ました。また、シンポジウムでもオール茨城で登壇者をお願いし（登壇していただいた会員の皆さまにはかなり無理をお願いしましたが）、ソーシャルワークとは何か、私たちの専門的な価値とは何かを考えさせられました。さらに、翌日の茨城特別分科会では「当事者から学ぶ」と題して、福祉サービス等を利用している方たちから貴重なお話を伺いました。障がいがある方からのお話、社会的養護の経験者からのお話、認知症の方とご家族のお話、どなたのお話も、私たちがソーシャルワーカーとして、本当に当事者の方達の声を聴いているのか、本人の語る言葉を大切にしてきたかを考えさせられました。最後に、記念講演として社会的養護の経験者であり、高萩市の市長として活躍され、現在社会福祉教育に東北福祉大学でかかわっておられる草間吉夫先生にお話をいただきました。茨城特別分科会でもコーディネーターをしていただき、先生の話術に引き込まれながらも改めて自分たちの立ち位置を確認し、何を目指していけばいいのかを問われた様に思います。

開会式で、茨城の地から「気づき、考え、ともに学ぶ」ことを発信し、参加された皆さんがそれぞれに「おみやげ」を持って帰れることを目指してきました。アンケートに、「茨城は住みたいところ 47 位とっていたけれども、私の中では 1 番です」という言葉をいただきました。「いろいろな学びがありました」、「あらためて仕事を振り返る機会となりました」などの言葉をいただきました。それぞれの胸になにかしらの気づき、おみやげが残っていたらとても嬉しく思います。心に残る茨城大会になったでしょうか。

最後に、あらためて大会の準備や当日のボランティアおよびご参加いただいた会員の皆さまに深く感謝致します。本当に、ありがとうございました。



歓迎の言葉
茨城県社会福祉士会 竹之内会長



主催者挨拶
日本社会福祉士会 西島会長



来賓挨拶
茨城県副知事 小野寺俊 様



来賓挨拶
つくば市長 五十嵐立青 様

全国大会を終えて



茨城大会実行委員長 椎名 清和

本年 6 月 1 日（土）・2 日（日）の茨城大会には全国すべての都道府県から 1012 名の参加がありました。準備期間中は、一体、どれほどの参加があるのか、魅力度 47 位だから少ないのか、はたまた会員数の多い東京社会福祉士会等が近隣にあることもあり多いのか、わからない状態でしたが、蓋を開けてみれば、例年の大会の参加者数を大きく割り込むこともなく一安心できました。とはいえ、想定していた 1200 名には届かず、周知についての工夫がもう少し行えていたらとも思います。

なお、茨城県内では会員でない方も含めて 260 名の参加がありました。例年、全国大会を契機に主催県士会では会員数の増加がみられますが、茨城県社会福祉士会の会員数も 2019 年 6 月 30 日現在で 695 名となりました。前年同月同日比では 6.92%の増加となり、増加率は全国一になっています。これもひとえに全国大会の実施に尽力していただいた会員の皆さまのおかげです。

茨城大会をとおしての感想は、「全国大会は、主催する都道府県社会福祉士会の有り様が如実に反映される」です。だからこそ、全国大会アンケートに記載されていた高（好）評価は本会会員の日頃の諸活動が反映されたものであるように思えます。次の言葉は、第 18 回秋田大会（2010 年）に参加した会員の言葉になりますが、およそ 10 年を経過して、いささかなりと実現できてきたでしょうか。

自分達で研究発表をできるように、興味や意識を共有できる時間が増えてきているようにも感じます。年齢も経験も職種も違う人が集まる事で、普段職場では口にできない、不安を話せるような場にもなってきました。

人とのつながりが一番の財産。もっともっとたくさんの社会福祉士が、気軽に交流しながら参加できる会としていきたいです。

茨城大会では、トラブルも大中小と色々ありましたが、皆さまのおかげで無事に乗り越えることができました。この場を借りて、お礼申し上げます。



← 講演『これからの社会福祉士への期待』 厚生労働省社会・援護局 道念由紀氏



↑ 基調講演『「当たり前」をひっくり返す～「私」から始まるコミュニティワーク～』
兵庫県立大学環境人間学部 竹端寛先生 引き込まれる講演、先生は壇上から降りて参加者にもどんどん問いかけていきました！

茨城大会に参加して



県央ブロック 久米 良太

令和の時代に入り初めての日本社会福祉士会全国大会では、大会のボランティアとしても参加させていただきました。全国大会には参加したことがありませんでしたが、地元茨城大会ということでぜひ参加しようと思いました。

大会でのボランティアは会場内の誘導係を担当させていただきました。たくさんの方が行きかう中エスカレーター前に立って挨拶し誘導する担当でした。正直疲れましたが、参加者約 1000 人の方ほとんどの方にお会いすることができたのかなと思うと充実感や達成感を強く感じています。

研修の内容もさることながら、それについて全国の社会福祉士の同志の皆さんと意見交換をしたことが思い出深いです。様々な意見を持った方と話す中で、すごいなと思うような考えもあり、感心を抱くだけではなく、自分の小ささに悔しさを感じることもありました。様々な意見はある中で「自分はどうする？」という課題を改めて痛感しました。

この茨城大会に参加したことで、自問自答し続け日々自己研鑽することの重要性を感じました。

シンポジウム『考えよう 新たな時代にしめす社会福祉士の真価』

コーディネーターの竹端先生がオール茨城で壇上に上がって頂いたシンポジストの話を引き出し上手くまとめてくださいました



コーディネーター 竹端寛先生



シンポジスト 東京保護観察所立川支部
保護観察官 作間政雄氏



シンポジスト 筑波大学附属病院
医療連携患者相談センターMSW 岩田直子氏



シンポジスト 笠間市教育委員会
スクールソーシャルワーカー 福島恵美氏



シンポジスト 土浦市役所保健福祉部
障害福祉課長 加藤史子氏

全国の仲間をお迎えして～救護班から～



県北ブロック 山里 和矢

平成から令和に年号が変わりちょうど1ヶ月、つくば国際会議場で日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会が開催されました。

その中で救護班の取り組みを紹介します。当初救護班は、保育・救護班でしたが、保育の依頼がなく救護のみを行う事となりました。一日目、救護室で竹之内会長がお召替え、和装に身を包んで全国の皆様を「お・も・て・な・し」。受付開始の頃に最初で最後の利用者が、「踵に靴擦れができた。」という事で絆創膏を。看護師さんが貴重な報告書を作成しました。お昼頃には東京都社会福祉士会の方が視察にみえました。救護は活動が少ない事が良い事ですので大会は皆さん良い健康状態で2日間過ごされたという事になります。

大会では竹端先生の会場を巻き込んだ講演、草間先生のご自身の経験を踏まえたお話しや全国の皆さんの研究発表、そして郷土茨城のすばらしさを再確認できる催しと全国の仲間との交流を持てた懇親会をメインに救護班の看護師さんのお話し、ボランティアメンバーの日々の取り組みなど、普段は聞けない体験談のお土産まで頂いて充実した二日間を過ごすことが出来ました。

最後に実行委員の皆さま、ボランティアで関わられた皆さま大変お疲れでした。次回の高知大会でも救護班が活躍しないことをお祈りしております。



懇親会は竹端先生の音頭で乾杯！
ペンを準備されていて自著にサインする気満々



オープニングのアトラクションは
自然生クラブ 様による迫力ある創作演舞



ゑびす屋兵助 様によるガマの油売り口上
観客を引き寄せる筑波山名物の絶妙な話芸



品揃えにも拘った茨城の地酒試飲コーナー
大人気でした！！



懇親会最後は来年の高知大会 PR
徳博会長を中心に盛り上げていただきました！

茨城大会に参加して



県南ブロック 山口 めぐみ

6月1日（土）、2日（日）に開催された茨城大会は、私にとって初めての全国大会でした。大会ではボランティアとして「生活構造・相談援助分科会」のタイムキーパーを務めさせていただきました。

分科会では、司会者である溝渕さん（高知県社会福祉士会）と緊張感を共有しながら開始時間を迎えました。発表者の方々はどなたも準備万端。内容も素晴らしく、大変勉強になりました。テンポの良い進行が功を奏し、多くの質問が出る活気ある分科会となり、盛況のうちに閉会となりました。司会者の落ち着いた語り口が場の雰囲気を作り出していく様子や、進行方法についても学ぶことができました。閉会后、「こんなに質問が出る大会は初めてだ。」との声が聞かれたことが印象的でした。溝渕さんとは来年高知大会でお会いするお約束をいたしました。

今回の大会に参加し、「社会福祉士として、地域社会でどのように役割を果たしていくべきであるか」ということを考え直すことができました。また、ボランティアとして役割を与えていただいたことで、多くのことを学ぶこともできました。

茨城大会の成功の陰にはいろいろなご苦労があったとお察しいたします。実行委員会の皆様、お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。



茨城特別分科会『当事者から学ぶソーシャルワーク』

障害がある方2名、社会的養護の経験がある方、認知症をかかえる当事者とそのご家族にご登壇頂き、ご自身の言葉で語って頂きました



茨城特別分科会のコーディネーターは東北福祉大学特任教授の草間吉夫先生、当事者の皆さまの話を引き出し深めてくださいました
竹之内会長からは最初に茨城特別分科会企画の趣旨説明をさせて頂きました

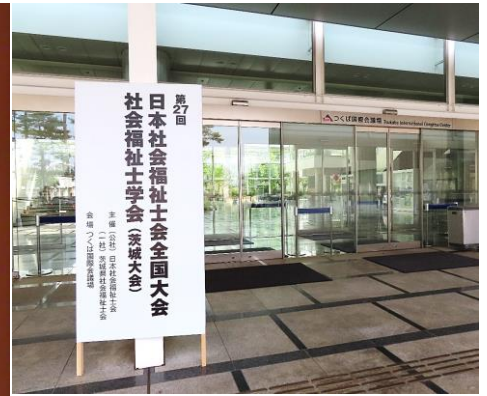


分科会（個人発表24本、自主企画シンポジウム2企画、茨城特別分科会）
生活構造・相談援助の分科会では茨城の酒寄会員も発表されました

福祉施設の出店・書籍販売・茨城のお土産
物販コーナーも賑わっていました



記念講演『私が歩んできた道』 東北福祉大学特任教授 草間吉夫先生
ご自身の子どもの頃からこれまでの体験を元にお話頂きました



会場となった
つくば国際会議場（エポカルつくば）



メイン会場・分科会・懇親会も1か所で
会場も好評でした



農業実践学園 様より干し芋を寄贈頂き
全参加者の皆さまにお配りしました



2日間大会の司会を務めた角田会員
聞きやすく適任でした！



茨城大会の抄録集
前日はコングレンスパックの準備も頑張りました



引継ぎ式
茨城から来年度開催の高知へ



2020年6月6日（土）・7日（日）
高知大会での再会が今から楽しみです！！

「福祉関係者のための成年後見制度活用講座」に参加して



県西ブロック 岩見 亮

まず今回の「福祉関係者のための成年後見制度活用講座」を行うにあたり、講義をして下さいました竹之内会長はじめ、水戸家庭裁判所 布留川氏、県士会会員 大類氏、リーガルサポート茨城 支部 石田氏、茨城県弁護士会 小沼氏、又、研修の運営をして下さいました社会福祉士会各関係者の方々に感謝を述べたいと思います。本当にありがとうございました。

今回初めて、成年後見制度活用講座に参加させて頂いて、成年後見制度の概要や在り方、活用の仕方などさまざまな事を学ぶことができました。個人的に社会福祉士としての資質を考えたとき、社会福祉士の倫理綱領の前文で示されている人権と社会正義の原理に則り、社会福祉の推進とサービス利用者の自己実現をめざす専門職として成年後見制度は、自己実現に欠かせない大切な一つのツールだと思っていました。そんな中、成年後見制度活用講座の知らせが届き、深く成年後見制度を知りたいとの強い思いから受講させて頂きました。

今回のテーマが、成年後見制度の概要や日常生活自立支援事業との違い、法定後見などの申し立て実務、成年後見人の職務など幅広く成年後見制度について講義していただき、成年後見制度を学ぶことができました。その中で具体的に何を学んだのか講義ごとに分けて述べていきたいと思います。

まず1つ目の講義「福祉サービス利用と成年後見」では、社会福祉基礎構造改革による「措置」から「契約」でどのように変化してきたのか。そして、契約の意味・意義とは何なのか？を学ぶことができました。又、各関係法令に定められている後見に関する条文など後見制度に焦点を絞った講義をして下さいました。その他、虐待関係や成年後見制度の現状など学びました。率直な感想として、当日の講義資料に書かれている、必ずしも親族が「本人」の一番の理解者や代弁者ではないこともある。との文が心に響き、意思決定支援をしていく上で、家族の言葉・思いが本人の意思そのものでない可能性があることを再度改めて認識することができました。

2つ目の講義では、「成年後見制度の概要」の講義で、民法の基本的考え方、成年後見制度の理念と改正のポイント、法定後見制度の概要など制度ごとの役割を学びました。又、任意後見制度、成年後見登記制度、その他制度支援をする上での、各種サービスの概要・法律など知識を得ることができました。その中で、成年後見関係事件の概況にも触れ、制度利用に至る開始原因や申立件数などの比率など知ることができました。年々、成年後見制度の利用者数が増加していく中で、こういった比率を理解しておくことは、今後制度利用をする上で欠かせないものだと思います。

3つ目の講義「日常生活自立支援事業と成年後見制度」では、各制度の位置づけや違い、日常生活自立支援事業利用のプロセスなど学ぶことができました。この講義では、日常生活自立支援事業のプロセスやサービス内容、今後の課題など日常生活自立支援事業の実情を深く知ることができ、とても勉強になりました。成年後見制度と日常生活自立支援事業との違いを知り、併用もできることで連携をしていくことが重要であると思いました。

4つ目の講義「法定後見などの申し立て実務」では、実際に法定後見を利用していく上で、こういった手順で利用していくのかを学びました。申立権者や類型、どの書類が必要なのか？など、実務を知り、今後成年後見制度を活用していく時に必要な知識を得ることができました。

5つ目の講義「成年後見人の職務」では、成年後見制度を利用していく上での心得や後見人自身の身の守り方など、リアルな現状・現場を聞くことができました。キレイごとばかりではないことや、それでも利用者の人権を尊重していくことの大切さなど生の声を聴くことができ、とても貴重なお時間でした。

今回の研修で、成年後見制度に関してほんのさわりの部分であったと思いますが、成年後見制度を少しでも理解することができました。今後、またこのような機会がありましたら受講させていただこうと思います。本当にありがとうございました。



私が大学を卒業して、福祉の仕事に就き 10 年が経ちました。学生の頃は心理学を専攻していたため、就職をした際には社会福祉士の資格がないまま、医療ソーシャルワーカーとなりました。当時の教授には、「“M まったく”、“S さっぱり”、“W わからない” 仕事だって言われているよね。」と言われましたが、自分自身でも、どんな仕事をするのかよくわからずに就職したような気がします。そして、社会人となってから社会福祉を学び、社会福祉士の資格を取得しました。6 年間は栃木県の療養病床の MSW や介護老人保健施設の相談員などを経て、現在の職場に転職をしました。

現在は地域包括支援センターのランチである在宅介護相談センターの相談員と介護支援専門員を兼務しています。今までは、病院や施設に長期に入所する方やそのご家族の支援をしてきましたが、茨城県に来て、はじめて地域に暮らす方々の支援をするようになりました。在宅療養の支援や地域支援をするようになり、今まで自分がやってきた事は何だったのだろう・・・と病院や施設という箱の中の事ばかりに目を向け、その外にはあまり目を向けていなかった自分に気づきました。地域に出たことで、1 つ 1 つのケースワークを通して地域の課題なのだと捉える視点を持つこと。事業所で待っているだけの相談支援ではなくアウトリーチの視点を持ちながら仕事をする。自ら出向いて住民の方に地域の事を教えて頂いたり、一緒に課題を考えていくこと等々…。茨城県に来てはじめてソーシャルワークと向き合ったのではないかなと思うほど、沢山の出来事や学びがありました。ケースワークとコミュニティワークは両輪なのだという事を日々痛感しています。

その中で私の支えだったのは、地域で出会った先輩方でした。職場内に社会福祉士がいない環境ということもあり、普段から話を聴いてくださる皆さんには、とても感謝しています。素敵だなと思う先輩が多く、一方で不甲斐ない自分に落ち込むこともあります。先日受けた研修の中で、ソーシャルワークの技術には、スキルやテクニックという意味だけでなく、“アート” という意味もあり、ソーシャルワーカーの経験・性格などにより変わる独自性もあるのだというお話を聞き、「上手に支援が出来ていないように感じて、今の自分に出来ることをしていけば良いのか。」と少しホッとした気持ちになりました。先輩方のようにはなれないかもしれませんが、悩んだり迷ったりしながらも、自分らしいソーシャルワークが出来るよう、これからも日々の支援や地域と向き合っていきたいと思います。



県北ブロック便り

2019 年 夏号

皆様、こんにちは。県北ブロック広報担当 石井です。

今回は、県北ブロックでの定例会開催には、残念ながら至りませんでした。
場所等の提供に関しては、ここぞとばかりに(笑)決めたものの、肝心の人数の都合がどうしてもつかずに、結局は流れてしまった次第です。

さて、代わりと言っては何ですが、今回開催された『全国大会』でのボランティア報告ができれば・・・と思います。

今回、県北ブロックからもクローク、託児関係等のボランティアに参加させていただきました。

全国からの沢山の参加者や、思わぬお客様？！(G20関係の方でした)までに、時には「片言のつたない英語」を駆使しながら、とても充実した日々を送ることが出来ました。



こうして多数の皆様を支えられつつ、無事に務めを終えることが出来ました。自分としましても、仲間との再会等で、非常に思いが詰まった大会になりました。
今後も他県での大会にも積極的に参加しつつ、研鑽を図っていこうと感じた次第であります。



茨城県社会福祉士会のFacebookページもよろしくお願いします！

<https://www.facebook.com/csw.ibaraki/>



各種お知らせや研修会の様子等を発信しています。
皆さまで「いいね！」やフォローをお願いいたします！

※「いいね！」などのご参加を頂くにはFacebookへの登録(無料)が必要となります。
Facebookに登録しなくても閲覧は可能です。



県央ブロックだより



実践報告会に参加して

阿久井 孝裕

5月11日に茨城県総合福祉会館にて、県央ブロック実践報告会が開催されました。14名の参加者が実践報告に熱心に耳を傾け、活発な意見交換を行ない、有意義な時間を過ごすことができました。

実践報告では、高齢者支援に携わっておられる2名の会員の報告がありました。

水戸市北部高齢者支援センターの酒寄之枝氏の報告からは、「お散歩パトロール隊」などのネットワークを地域の人たちと協働しながら築いていく取り組みについて、具体的に知ることができました。また、実際の支援の事例の中から、支援を拒み餓死することを望む発言をし、診療も拒否して介護保険にもつなげられない方への支援の事例から、包括による支援の重要性を学びました。

みと東部特別養護老人ホームの稲田佐代子氏の報告は、地域・施設・在宅における実践を、社会福祉士的な視点で振り返るものでした。放浪がある方の支援の事例では、困難さを感じがちな状況の中、本人の思いを受け止め、より良い生活につなげていこうと努力された実践から多くのことを学びました。



今回の参加者は、高齢者分野や障害者分野、専門学校の教員など、多岐にわたる分野で活動されている方たちでした。全員が6月の全国大会に参加予定とのことで、学びを深めていこうという意欲からも大いに刺激を受けました。

全国大会 茨城大会へボランティアとして参加して

浅川 信也

令和元年6月1日（土）2日（日）の2日間参加し、2日目午前中は分科会のボランティアスタッフを務めました。私自身、初めての全国大会参加であり、全国より1,000名近い参加者が「つくば国際会議場」へ集い、開会時には会場がほぼ満席であった事は圧巻でした。

今回は、ボランティアスタッフとしての参加でもあり時間の関係上、各講演や分科会に参加は限られましたが、茨城大会のテーマである「地域共生社会」の実現を目指してと記されていたとおり、日々生活を送る上で生活のしづらさを抱える方々を支援していく上では、これまでの既成概念によってソーシャルワーカー自身が「支援の枠組み」を引いてしまいがちである事や2日間を通じ「個別ケア」「自己決定」「自己参画」のワードが、非常に重要である事が印象に残りました。

来年の全国大会は高知県で開催されます。茨城県から決して気軽に足を運べる距離ではありません。しかしながら、全国で多岐に渡り活動している社会福祉士が一斉に集まる数少ない機会であり、会員同士の再会を喜ぶ方・新たな学びを得て帰宅の途についた方も多いと聞き、可能な限り高知県へ足を運ぶ会員が多い事を望みます。

県南ブロック活動報告

ホームページ ⇨ 「茨城県社会福祉士会 県南」で検索

全国大会茨城大会 お疲れ様でした！

去る6月1日、2日に開催された「日本社会福祉士会全国大会・全国大会(茨城大会)」に参加、または、ボランティアにご協力頂いた方お疲れ様でした！県南ブロック活動10年目の時期に全国大会が開催され、参加された会員の方も多いのではないのでしょうか？基調講演や分科会での発表を聞いて、大変刺激を受けたのは、私だけではないはず！

大会を機に、県南ブロックに在住・在勤の会員の皆様と顔が見える関係を作っていけたらと思いますので、偶数月第三土曜日の定例会へのご参加お待ちしております♪



定例会のご報告！

4月は、つくば市役所の佐野会員・竹林会員に生活保護ケースワーカーについて、6月は牛久愛和病院の中川会員に医療ソーシャルワーカーについて講師役になって頂き勉強会を行いました。どちらも普段連携することが多いですが、考え方の違いが出ることも少なくない領域ですが、勉強会を通して、理解を深めることができました。



今後の「勉強会」担当予定

- ・ 10月 湯原会員
(稲敷市社会福祉協議会)
 - ・ 12月 橋本会員
(土浦市社会福祉協議会)
 - ・ 2月 岡野会員
(利根町社会福祉協議会)
- 今後も続きますので
是非ご参加ください！

★県南ブロック交流会について★

県南ブロック交流会としてバーベキューを8月17日に予定していましたが、全国大会の慰労会と合同開催とし、**8月24日に変更**になりました。

詳細は、別紙通知をご確認ください。



今回の県南ブロック活動報告はいかがでしたか？
ご意見や記事にしてほしいことがありましたら、
右のQRコードを読み取り、お送りください。



けんせいつうしん

これから本格的な夏がやってきます。毎年のように最高気温が更新され、「酷暑日」なる言葉も当たり前…体調に注意しながら、がんばりましょう！

さて、今年度最初のリレートークは、居宅介護事業所 はばたきⅡの 古市 律子さんです！

リレートーク13

筑西市に居宅介護支援事業所を開所し、1年が過ぎました。現在常勤1名非常勤1名の事業所で、管理運営業務と介護支援専門員の兼務をしています。大学時代にかじっただけの福祉を、いまや専門職として、地域福祉の末端に存在していることに、私自身が驚いています。周りの専門職の皆様に刺激と影響を受け、介護支援専門員と社会福祉士としての道が拓かれました。これまで、たくさんのケアプランを目の当たりにする環境にあったことに感謝しつつも、実際の居宅介護支援業務は私にとって難しいことの連続でした。その時々で周りの先輩方や支援していただく専門職の方々にご指導とお力添えいただきました。関わっていただいた皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。

自分の知識の無さや経験不足が、気づきの視点を曇らせます。アセスメントや支援内容に大きく影響するため、クライアントやキーパーソン、主治医や支援担当者への質問の内容を熟考し、質問力が高めるよう努めています。介護保険の知識だけでは足りないケースが多くあり、社会福祉士としての視点が活きています。これからも研修等を通して、変わる制度・良い支援を知る機会を求めていきたいです。

また、「防災と福祉」に注目しています。消防団で防災活動をしています。この活動にも福祉的な視点の必要性を感じています。非常時において、要援護者の避難の必要性や時期、誰が誰をどのように避難をさせるのか、計画や訓練してないことには、非常時に対応ができないと考えます。

共に生きる社会を作っていく、社会福祉士の一人として、私自身が社会資源となっていきたいです。

定例会開催のお知らせ

2019年8月3日（土）10:00～
ケアマネによる「地域包括ケアシステム」
への貢献とは何か

講師：茨城県介護支援専門員協会 古河地区会
事務局 安部一枝氏

会場：県西生涯学習センター 小講座室2

参加費：無料



詳しくは、ホームページをご覧ください！上記 QR コードから簡単にアクセスできます



鹿行ブロック情報

鹿行ブロック定例会

「日本社会福祉士会全国大会 茨城大会報告会」を開催します。

去る6月1日（土）2日（日）に盛大に開催されました全国大会茨城大会。

本年度最初の鹿行ブロック定例会は、大会に参加した会員、参加できなかった会員による報告会を開催します。

あわせて鹿行ブロックの昨年度の事業報告と今年度の事業計画の承認の場とします。

報告会終了後は恒例の情報交換会を兼ねた交流会です。

事務局から鹿行ブロック会員に発送される定例会開催文書の申込方法にて、ぜひご参加ください。

鹿行ブロック定例会

内 容 「日本社会福祉士会全国大会 茨城大会報告会」

日 時 令和元年8月3日（土）午後5時

場 所 神栖市堀割1-5-12「いちじく」（和食）

参加費 3,000円



鹿行ブロックでは、ゆるやかなネットワークづくり、また会員を増やしていけるよう事業展開していきたいと思いをします。

本年度も今後、11月と2月を目安に研修会、交流会の開催を予定しています。開催が決まり次第、周知していきますので、非会員の方も誘ってご参加下さい。

鹿行ブロック長 奥井雅史

締め切り間近！！

2019年度 障がい者の地域支援研修 申込受付中

本研修は、障がい者に対する特性の理解と認識を深め、障がい者の地域生活支援を実践するために必要な社会福祉士の力量を向上することを目的とした認証社会福祉士認証・認定機構認定の研修になります。

会員の皆様からのお申込みをお待ちしております
申込期限 2019年8月30日（金）



- ◆開催期日 2019年10月12日（土）～10月13日（日）
2019年12月21日（土）
- ◆場 所 茨城県県総合福祉会館
- ◆お問い合わせ先 茨城県社会福祉士会事務局
電話：029-244-9030
FAX：029-244-9052

※詳細・お申込みについては、当会ホームページ掲載の開催要綱をご覧ください。

★新規入会会員大募集中です★

職場やご友人に社会福祉士の資格をお持ちでまだ社会福祉士会に入会されていない方はいらっしゃるいませんか？また、新たに社会福祉士国家試験に合格した方はいらっしゃるいませんか？もし身近にそんな方がおりましたら、ぜひぜひ社会福祉士会への入会のお声かけをお願いいたします。資格取得はスタートラインです。様々な研修に参加したり、懇親会でネットワークを広げたり、社会福祉士会で更に自分を磨いて行きましょう！相談できる仲間が増えるとお仕事をする上でもとっても心強いですよ♪

今年度は茨城大会開催に合わせて年会費の一部を免除するキャンペーンを実施しております。まだ未入会の社会福祉士の方にはこの機会をぜひご活用頂けるようお声かけください。入会申込書は事務局にご用意しておりますので、お電話やメール、ホームページの専用フォームよりお気軽にご請求ください。



携帯電話やスマートフォン等を利用した連絡網への登録をお願いします！

郵送費等の低減と会員の皆様への情報提供の迅速化を目的とした連絡網システム（マ・メール）へのご登録をお願いいたします。

- ①迷惑メール防止機能をご利用の方は「mamail.jp」からのメールを受信できるようにご設定ください。
- ② csw-ibaraki@mamail.jp に空メールを送信してください。
- ③ 折り返し送られてきた「入会お礼メール」の本文末に記載されているリンクをクリックし、プロフィール入力画面にしてください。
- ④ 表示された画面でプロフィールを入力し、[登録]をクリックして登録完了です。

※登録は、一人につき一つのメールアドレスに限定して頂けるようお願いいたします。



【編集後記】

令和の時代を迎えて1カ月、第27回 日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会が茨城で開催されました。会場となったつくば国際会議場は全国からの交通アクセスは良いものの、魅力度最下位をキープしている茨城県、5月の10連休で既に遠出をされた方も多いのではと考えるとどれ程の参加者が集まるのかいささか不安ではありましたが、それでも、全国の仲間から「茨城大会行くよ」「楽しみにしてるよ」という声に励まされながら準備を進め、ふたを開けてみれば全国から1000人を超える皆さまにご参加頂き、とても嬉しく思います。

準備や当日の運営に携わってくださった皆さま、広告等でご協力頂いた皆さま、そして全国から参加してくださった皆さま、本当にありがとうございました。全国の会員の皆さまと来年6月の高知大会で再会できることを心より楽しみにしております。

さて、全国大会という大きな山を越えましたが、これからも茨城県社会福祉士会の活動は続いていきます。秋には共通基盤研修、各ブロックでも定例会等が予定されています。ぜひ今後の活動にも積極的にご参加頂き、気づき・学び・繋がりを深めていきましょう！

広報事業部